

## 雨天に影響されにくいグラウンド、公園内になじむ外観 新しくなった、大田スタジアム(東京都大田区) ～実は、野原グループの環境商材が活躍しています～

11月は公共建築月間(11月11日は公共建築の日)です。

公共建築とは、国の機関、地方公共団体または政府関係者もしくはこれに準ずる機関が施工した建築物及びその他公共性の高い建築物を指します。官民一体となった地域の活性化、生活・文化水準の向上、街並み・景観の形成等を図る上で重要な役割を果たしていると言われてい



■左：大田スタジアムの自然の温もりある外観、右上：緑鮮やかなグラウンド、右下：32席に増設された車いす席

東京都大井ふ頭中央海浜公園に隣接する**大田スタジアム**も公共建築のひとつ。

大田区民からの要望がかなうかたちで1995年に建設された**全面人工芝の野球場**で、社会人野球・大学野球リーグ、高校野球などの**アマチュア野球のシンボリックなスタジアム**として、ファンから愛されているスタジアムです。2015年度に整備計画が発表され、2018年6月から大規模な工事が開始、2019年(令和元年)7月1日にリニューアルオープンしました。実は、この大田スタジアム、**環境に配慮した商材が随所に使用**されています。

### ■雨天に影響されにくいグラウンド | その秘密は、“水はけのよさ”

リニューアルした大田スタジアムの特長のひとつは、**雨天にも影響されにくい水はけのよいグラウンド**です。人工芝の全面改修となった今回、その選定には人工芝の下に配置する**高速排水暗渠(ドレーン)**、人工芝のボールの弾み具合やクッション性がポイントとなり、**アークノハラ**の環境商材をご採用いただきました。

#### <現場を振り返って | 人工芝とグラウンド用軽量排水材「NHドレーン」の担当者に聞く>

近年、東京都心では短時間でのかなり強い降雨が増えています。雨でグラウンドが使えない、またはイベントや試合中のプレイに悪影響がでては、選手も観客も楽しさが半減してしまいます。

「NHドレーン」は、**廃ペット樹脂を主原料とするグラウンド用軽量排水材**です。



■左：工事担当の華井登史朗さん、右：営業担当の寺田英之さん

“**グラウンド使用者が、安全で快適に使用できるグラウンドを**”との想いで、2014年に開発・発売。**水はけ(排水性と集水性)に優れているので、「バケツをひっくり返したような激しい雨(30～40mm/h)」の後でも、短時間でグラウンドを使用できます。**2016年に、国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS/公共工事における新技术活用システム)にも登録されています。(NETIS 登録番号：KT-160110-A)

“**NH ドレインは、水はけが従来工法(側面透水側溝とポラコンパイプの併用)に比べて 90 パーセント以上良いものですが、まだまだ知られていません。**

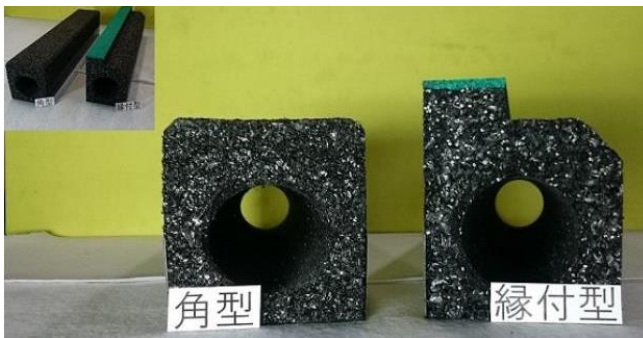
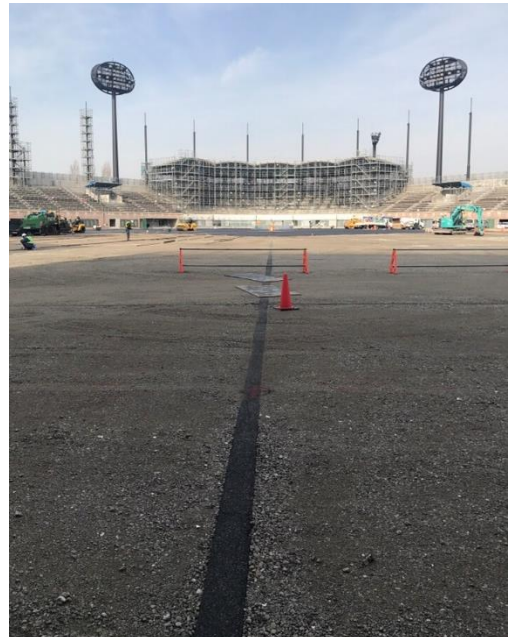
大田スタジアムでは、突発的な非常に多い降雨量と排水量を試算し、その結果に基づいて NH ドレインを放射状または格子状に配置しています。

今後、新たな排水方法として NH ドレインの良さを多くの方に理解していただき、普及させていきたいですね。(寺田)”



“**グラウンド関係の工事担当は、大田スタジアムで 2 回目でした。今回、大田スタジアムでは、グラウンド面積 13,171.93 平米のうち、人工芝部面積が 12,962.55 平米、NH ドレインは全長 2515.2m を設置する大規模な現場でした。そのため、密なコミュニケーションが取れるようにとの元請さまのご配慮から詰め所を設置いただき、私は 2019 年 1 月末から 5 月末まで現場に常駐していました。**

この現場は、みんなが協力して物事に当たる雰囲気があり、NH ドレインを初めて見るという方が多かったのですが、**軽量排水材だけあって、軽いので運びやすい、設置もしやすいと言われました。(華井)”**



■ 施工の様子\_左上：路盤掘削、中央：NH ドレイン設置、右：完了 (写真中央の黒い部分が NH ドレイン)、左下：NH ドレイン

## ■公園内になじむ外観、木のぬくもりと優しさが感じられる車いす席

リニューアルした大田スタジアムは、公園内になじむ外観、ユニバーサルデザインへの配慮の一つとして車いす席を増設したスタンドなど、水はけのよいグラウンドでプレイする選手だけでなく、訪れる人にとっても優しさを感じられる場所となっています。

その工夫の一つとしてご採用いただいたのが、**本物志向の木質感**を特長とする野原産業エンジニアリングの環境建材「WOODSPEC フェザールーバー/グレイスデッキ」です。

- ▶上：スタジアムの外観  
(植栽の間に使用されたフェザールーバー)
- 下：スタジアム内の車いす席  
(床面に使用されたグレイスデッキ)



### <木のぬくもりや優しさを感じてほしい | WOODSPEC フェザールーバー/グレイスデッキ>

「WOODSPEC フェザールーバー/グレイスデッキ」は、地球環境に優しくデザイン性も兼ね備えた人工再生木の環境建材です。

“より質感にこだわりをもち、景観を大事にするお客様へ、施工性も重視した商品をご提案したい”という、施工会社ならではの思いを胸に、2014年にルーバーを、翌年にデッキを開発、発売して以来、木のぬくもりと安心安全の面から、教育施設や公共施設・スペースを中心に多くの物件でご採用いただいております。



- 左：施工担当の高橋伸隆さん、右：営業担当の北村典子さん  
現場を振り返るお二人の笑顔から、当時の充実ぶりがうかがえます。

まずは、施工担当の高橋さんに当時の苦労話を伺ってみました。

“フェザールーバーは現場で完成形を組み立てて設置するのですが、とにかく時間がありませんでした。外構工事との絡みがあって施工のタイミングが難しく、ゼネコンの現場所長さんとコミュニケーションをとったり、アークノハラの華井さんから工事の進捗状況を聞いたりしながら、どうにか施工時間を確保しました。職人さんには約1年前から施工を依頼していました。

外壁への設置全長約334平米を約2週間で施工できました。フェザールーバーは業界の中でも最軽量の部類で、金属に触れても傷が付きにくいので、職人さんも気にせず作業しやすかったのだと思います。

職人さんとみんなで仕上がりを見て綺麗だな、と。やりがいを感じました。(高橋)”

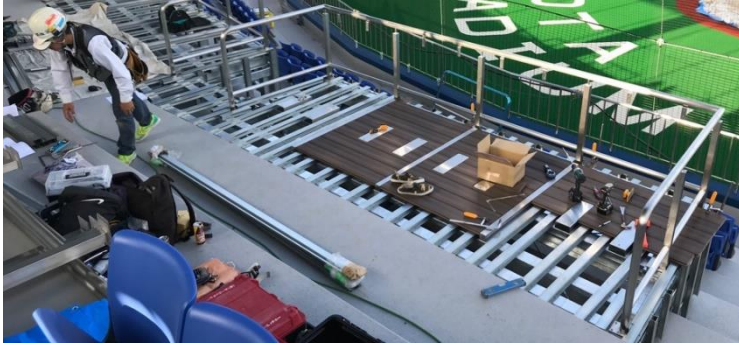


- 設置前のフェザールーバー\_色の組み合わせは現場で高橋さんが考案

ースタジアム内の車いす席の床面と付近の階段にご採用いただいたグレイスデッキの施工はいかがでしたか？

“スタンドなので傾斜があり、下地を組むのが大変でしたね。特に階段のあたりは、幕板(側面につける下地と板の両方)の現場加工が多くなるので、職人さんにも苦勞を掛けたと思います。

また、車いす席の床面については、今までのグレイスデッキの採用物件とは違い、デッキの上に取り外し式の椅子が置かれるので、一点加重によるデッキのへこみが懸念されました。そこで、設置部分に溝を作りステンレスのパイプを入れてデッキに直接載らないように工夫しました。(高橋)”



■左：施工の様子(溝を作ってステンレスパイプを設置)、右：ステンレスパイプの上に設置された取り外し式の椅子の脚部を拡大

—最後に、営業担当の北村さんはいかがですか？

“「WOODSPEC フェザールバー/グレイスデッキ」は、リサイクル木粉、リサイクルプラスチック等を主原料としており、人工再生木でありながらリアルな木質感と軽量さが特長です。大田スタジアムでは、野原ホールディングスの開発営業部によるスペックイン活動、アークさんからの現場の進捗状況の共有など、野原グループ全体が協力して、グループの環境商材のご採用と施工が実現したと感じています。最後に、改修工事の関係者の一人として、大田スタジアムがより多くの方に親しまれることを願っています。(北村)”

### 番外編 | ノハラ事業の“種をまく人” 野原ホールディングス 開発営業部 妻藤琢二さん

野原グループの環境商材が随所で見られる大田スタジアム。全ての始まりは、2015年10月。

野原グループのオリジナル商材のスペックイン活動(設計図書への折り込み活動)を担う野原ホールディングス 開発営業部の妻藤琢二さんが、大田スタジアムの改修計画情報を紙面で目にし、大田区役所にヒアリングに伺ったことが端緒となりました。

“大田スタジアム改修計画を目にしたとき、雨天に影響されない、水はけのよいグラウンドにできれば、大田スタジアムの多くのファンが喜ぶだろうなと思いました。(妻藤)”

しかし、NHドレーンの採用決定は2018年8月。地道な“スペックイン活動=種まき”が実を結ぶまでの約3年間で印象に残っていることを伺いました。



■当時の手帳を読み返しながらか、こやかに話す妻藤さん

“当時、改修工事の設計者である松田平田設計さまへは、開発営業部の住吉さんが日ごろから訪問を重ねていたご縁もあり、2016年2月頃には、大田スタジアムの設計担当者さまにお会いし、アークノハラのNHドレーンを中心にご提案させていただききっかけとなりました。そこから、雨天に影響されにくいスタジアムを実現するため、フィールドに関わる技術的な参考情報の対応やご提案を重ねていきました。

私一人では到底無理でしたが、野原グループの施工ノウハウや様々な協力会社さまとの関係性をもつ商社機能をアークノハラの寺田さんや安永さんをはじめとする関係者全員のチームワークをもって対応することができました。

大田スタジアムが、より一層区民に喜ばれ、親しみのある場所になるよう、野原グループの環境商材が少しでもお役立ちできていれば非常に光栄に思います。(妻藤) ”

## 大田スタジアム施設改修工事 | 野原グループの実績概要

### <基本情報>

名称	大田スタジアム施設改修工事 (グラウンド面積 13,171.93 平米)
施主	大田区
設計	株式会社 松田平田設計
元請負者	北信・鎚谷・拓栄建設工事共同企業体
物件用途	体育施設

### <アークノハラ>

	NH ドレーン	人工芝	防球ネット・フェンス・バックネット
種別	材料販売	材料販売、施工	材料販売、施工
使用規模	2515.2m	12,962.55 平米	約 7500 平米 -メインスタンド(嵩上げ) -内外野スタンド -ブルペン他(張替え)
WEB	<a href="https://arc-nohara.co.jp/">https://arc-nohara.co.jp/</a>		

### <野原産業エンジニアリング>

	フェザールーパー	グレイステッキ
使用用途	外装化粧	スタンド席(車椅子用)床 等
使用材	オーク、レッドウッド、ウォールナットの3色 (見付 25mm × 見込 100mm)	ウォールナット
使用規模	コンコース室外機置き場・スタジアム内2階の通路：約 6.5 平米、 外壁：約 334 平米	約 168 平米 -スタンド席(車椅子用) -付近の階段 (3~4 段 11ヶ所)
WEB	<a href="https://eng.nohara-inc.co.jp/">https://eng.nohara-inc.co.jp/</a>	

## 野原グループについて

野原グループは、綿の商いを始めた 1598 年の創業以来、時代の変化に合わせた変革や創造を繰り返しながら、今や建材や鉄鋼関連およびセメントなどの建設資材販売、道路交通標識などの販売・施工、景観土木工事など、建設業界を中心に事業を拡大しています。

「住まい」、「都市」、「暮らし」の未来を創造する企業として、環境配慮型社会に貢献するため、2013 年以降、グループオリジナルの環境商材を開発。リサイクル木粉とリサイクルプラスチック等を主原料とする人工再生木シリーズの「WOODSPEC フェザールーパー/グレイステッキ」、廃ペット樹脂を主原料とするグラウンド用軽量排水材「NH ドレーン」などがその代表例です。

### 【発行元】

野原ホールディングス株式会社

〒160-0022 東京都新宿区新宿一丁目 1 番 11 号

社長室(担当/齋藤、中島) 電話：03-6328-1576 /e-mail：[nhrpreso@nohara-inc.co.jp](mailto:nhrpreso@nohara-inc.co.jp)

▼会社ホームページ

<https://www.nohara-inc.co.jp>